

やすらぎ

Vol.24
平成23年

y a s u r a g i

[目次]

P1...クローズアップ[心療内科]
P2...「当院の腹腔鏡手術について」

P4...「栄養課便り」、「健康講座」
別紙...「担当医師表」、「バス時刻表」

診療科クローズアップ

心療内科

部長 多賀千明

当院心療内科は、3人の精神科医師が担当しています。初診、再診ともに原則として予約制となっています。当科は入院病床が無いため、入院が必要な場合は、京都府下の単科精神科病院や大学病院をご紹介します。

皆様もご承知の通り、日本の自殺者数は、平成22年31690人で13年連続3万人を上回りました。男性が22283人と多く、中でも全体の約4割を40歳代から60歳代の男性が占めています。「健康問題」「経済・生活問題」がその主な原因でした。私たちも他の職種で努力をされている方々と同様、自殺防止のために、日常診療の中で日々努力しております。しかし残念なことに、自殺をされた方の多くは、精神科や心療内科で治療を受けることが無かったことが明らかにされています。

以前に比べ、精神科や心療内科の敷居は低くなり、比較的受診しやすくなっていると考えていますが、一般の方が受診するには、抵抗感があるのも事実のようです。当科は心療内科を標榜することで、少しでも、受診しやすい形をとっています。ただ、一人の

患者さんの診察に時間が要する当科の診療の特殊性から、なかなか外来予約が入りづらくなり、ご迷惑をかけているのが近年の傾向です。

また、高齢化で院内入院中の患者さんの精神症状発症率が高くなり、リエゾンと呼ばれる院内対診数が増えているのも、当科の需要が高まっている原因の一つです。外来患者さんの診断や受診理由も広がり、認知症、広汎性発達障害、不登校、職場不適應などの患者さんが来院されています。特に本人だけでなくご家族にも多くの負担が必要な認知症患者さんの増加は、日々深刻な問題となっています。認知症は記憶障害だけでなく、徘徊や妄想



ばなりません。

といった症状も生ずるため、医師だけでなく、福祉・介護のスタッフとも連携をとりながら、治療・支援を進めていかね

その他、当科は3人の医師が、緩和ケアに関わり、患者さんのQOLを高めるにはどのようにすればよいのかを絶えず模索しています。そして当院が臨床研修指定病院であるため研修医教育にも力を入れていますので、受診患者さんにもご理解いただければ幸いです。いつの日か、精神科の素養を少しでも身につけた若い医師達が日本中で活躍してくれることを夢に見ている次第です。

当院においては前の標榜科名であった神経科が外来に設立されてから、40年余りとなります。診療を受けやすい雰囲気づくりに最も気を配ってまいりましたが、まだまだ至らぬ点があることを自覚しています。精神疾患は診察に來られたらすぐに治る病気ではありませんが、「大事に至る前にまず相談を」というのが当科の願いです。